

マルチベンダーのプリンタ・複合機を活用する アプリケーションを開発可能に

～BMLinkS機器に対応したオフィスデバイス管理標準SDKと
プリントクライアントSDKをSler向けに無償で提供開始～

(社) ビジネス機械・情報システム産業協会
BMLinkSプロジェクト委員会

2011年11月

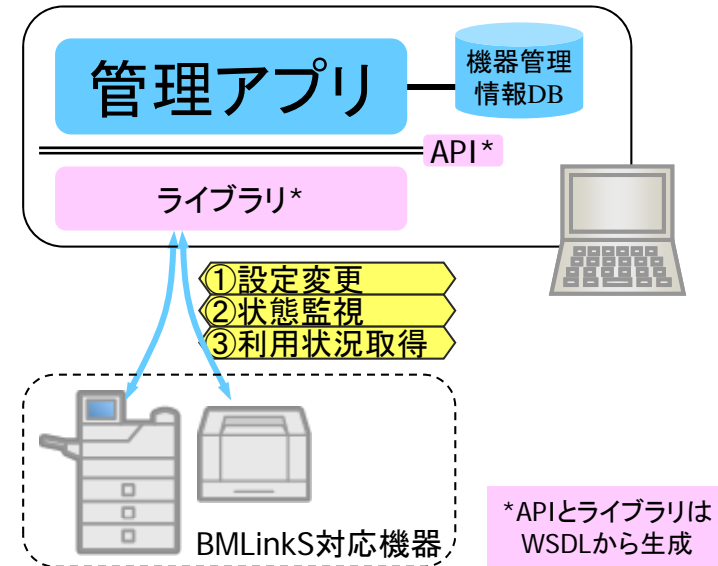
目次

1. 機器管理と印刷のSDKを公開
2. SDK公開の背景
3. オフィスデバイス管理標準SDK
4. プリントクライアントSDK
5. SDKライセンスの概要
6. BMLinkS商標等使用許諾契約
7. 今後の取り組み
(参考資料)

1. 印刷と機器管理のSDKを公開

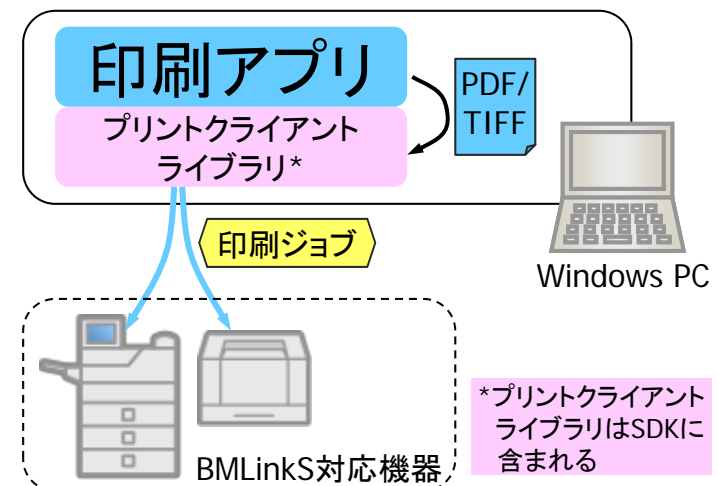
オフィスデバイス管理標準SDK

- マルチベンダーのBMLinkSオフィスデバイス管理標準に対応したプリンタ・複合機を管理するアプリを開発するためのSDK
- 機器の設定変更・状態監視・利用状況(ログ)取得が可能
- 機器のSOAP I/F定義(WSDL)を提供
- Java・C#・Visual C++などを使用可能



プリントクライアントSDK

- マルチベンダーのBMLinkS対応プリンタ・複合機に印刷するアプリを開発するためのSDK
- PDFとTIFFファイルを印刷可能
- Windows用ライブラリを提供




2. SDK公開の背景

デバイス管理機能: 用途に応じた
様々なアプリのニーズがある

アプリの例:

- ・ 設定情報の取得・設定に特化したオフィスレイアウト変更や引越し専用アプリ
- ・ 機器の状態監視結果を、SNMP情報収集アプリに組み込むための監視専用アプリ
- ・ 部門独自の清算アプリと連携する部門内課金情報収集アプリ

オフィスデバイス管理標準
SDK を提供




機器の設定・状態監視・
利用ログ取得をする
アプリを開発可能

印刷機能: BMLinkSドライバ
では対応できないニーズがある

ユーザー/Slurからの要望例:

- ・ 印刷時に独自の処理(例: ユーザ認証)を追加したい
- ・ カラー印刷・片面印刷などの設定変更を禁止したい
- ・ ユーザがすでに持っている多種多様なマルチベンダーのプリンタ・複合機で印刷したい

プリントクライアントSDK
を提供



BMLinkS機器に印刷
するアプリを開発可能

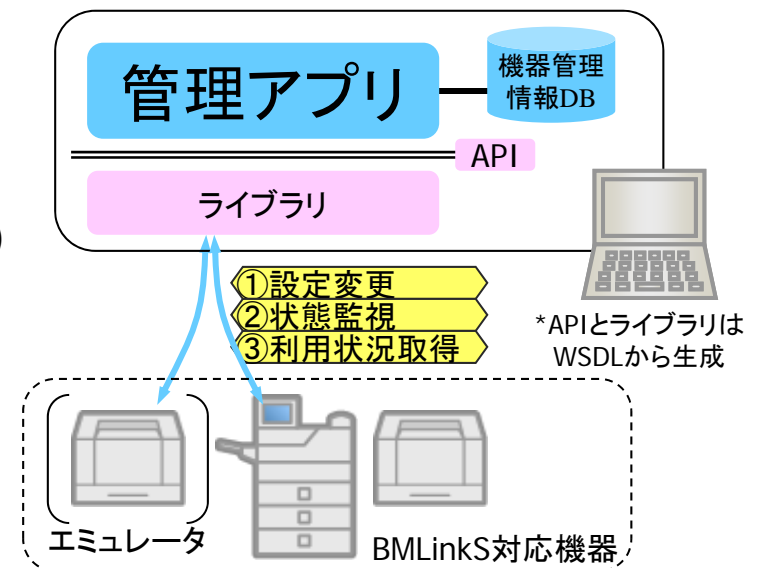
3. オフィスデバイス管理標準SDK

オフィスデバイス管理標準SDKとは

- マルチベンダーのBMLinkSオフィスデバイス管理標準に対応したプリンタ・複合機を管理するアプリを開発するためのSDK
- BMLinkSオフィスデバイス管理標準のSOAP I/Fの定義(WSDL)と、その仕様書を提供
- マルチベンダーのBMLinkS対応機器を管理可能
- 主な機能：設定変更、状態監視、利用状況(ログ)取得

SDKの内容

- 仕様書(WSDLとプロトコル仕様情報を含む)
- APIとライブラリはWSDLから生成
- 管理アプリのサンプルコード(Visual C++)
- エミュレータ
Windows上で動作するオフィスデバイスエミュレータ
仮想のBMLinkS機器として接続性やエラー処理の検証に利用可能



4. プリントクライアントSDK



プリントクライアントSDKとは

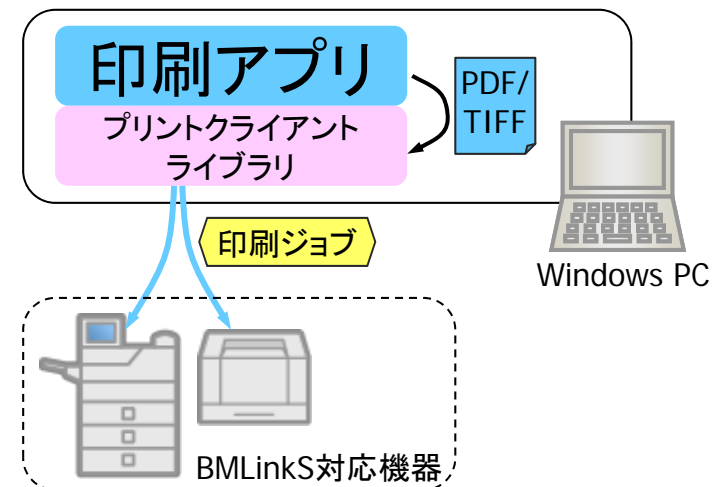
- マルチベンダーのBMLinkS対応プリンタ・複合機に印刷するアプリを開発するためのSDK
- PDFとTIFFファイルを印刷可能
- BMLinkSの印刷機能をWin32 APIとして提供 (x64でも使用可能)

主な機能

- デバイス検索、デバイスのCapability取得、印刷ジョブ投入と制御、ジョブ状態取得
- 印刷アプリが生成したプリントデータ (PDF/TIFF) を印刷

SDKの内容

- プリントクライアントライブラリ (DLL)
- 開発ガイド、API仕様書
- サンプルコード (Visual C++)



5. SDKライセンスの概要と日程



BMLinkS会員外の方でも、より広く利用頂けるようなライセンスを提供

- 【対象SDK】 ①BMLinkSオフィスデバイス管理標準SDK
②BMLinkSプリントクライアントSDK
- 【利用目的】 BMLinkSサービスを利用するためのソフトウェア開発
- 【対価】 無償
- 【使用許諾条件】 利用者は、自身のBMLinkS標準仕様に関する必須産業財産権を、会員および他の標準仕様採用者に対し、妥当な条件（無償を含む。）で且つ非差別的にライセンスすることに同意するものとします。
- 【提供開始時期】 2011年12月1日

問い合わせ先： JBMIA BMLinkS事務局

SDKライセンス詳細情報：

<<http://www.jbmia.or.jp/bmlinks/SDK/index.htm>>

6. BMLinkSロゴライセンス



BMLinkSロゴの使用ライセンスも提供

【許諾対象】 BMLinkSロゴ =>



【対価】 有償（5万円/年）

【BMLinkSロゴ使用のための条件】

使用者は、以下の3点を表明し、且つ保証すること。

- ① 自己が知りうる限りにおいて、適合製品がBMLinkSの標準仕様を満足していること。
- ② SDKを利用して適合製品を開発したこと。
- ③ BMLinkS認証を取得しているBMLinkS対応機器の少なくとも1種類を用いて、適合製品が正常に動作すること。

【提供開始時期】 2011年12月1日

問い合わせ先： JBMIA BMLinkS事務局

7. 今後の取り組み(1)

新たな標準活動として、昨今環境対応が重要なテーマとなっています。

BMLinkSプロジェクト委員会では、

- 公開済みのオフィスデバイス管理標準を拡張し、環境に対する見える化と制御の実現に向けた業界標準を策定
- 使用電力量やピーク電力の抑制に業界として寄与

することを目指しています。

業界標準の策定は来年5月を予定しており、プレス発表で公開致します。

7. 今後の取り組み(2)

現状： 各社毎の仕様で複合機/プリンタのエコ情報を提供
 →マルチベンダー環境で、Sierは各社対応が必要
 →外部機器からの制御も各社ごと

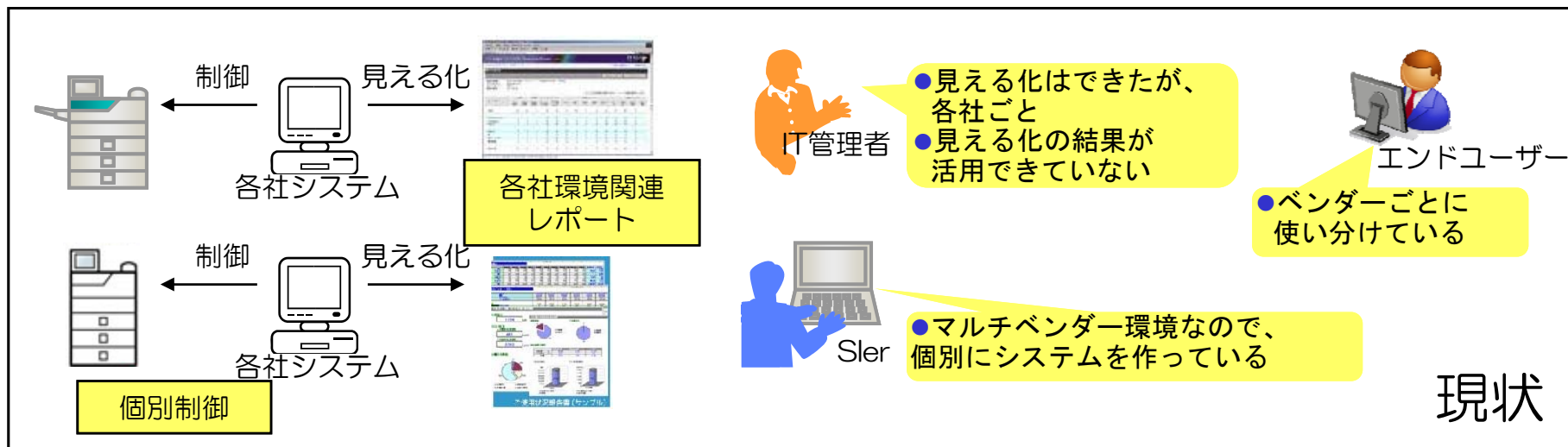
標準化

目指す姿： 各社が共通APIの下でエコ情報を提供
 →共通アプリ/サービスでマルチベンダー環境に対応
 更に制御の共通化も加える
 →外部機器からの制御が可能

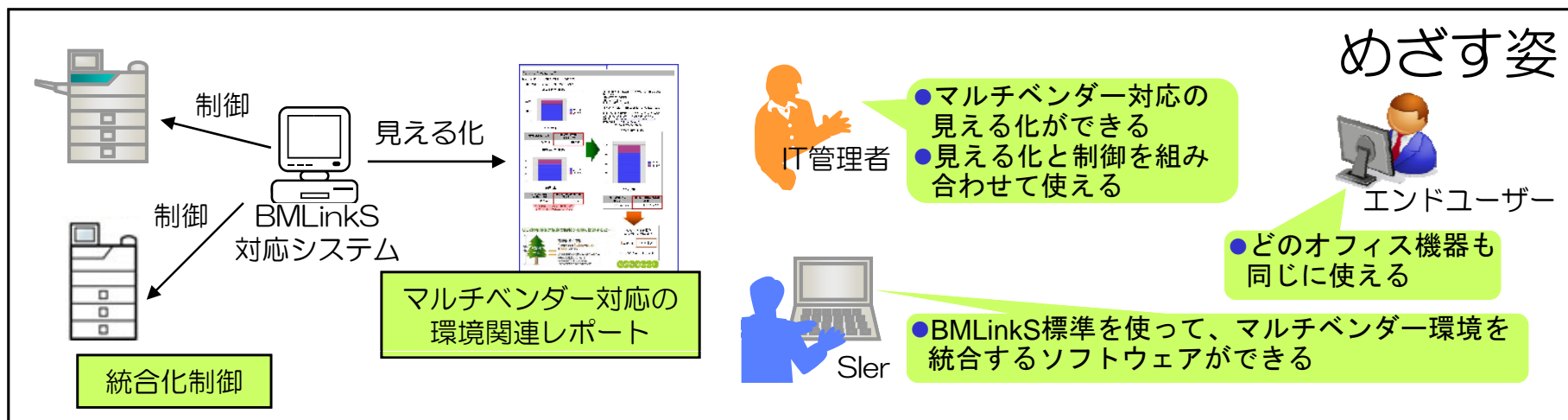
貢献： CO2削減、森林保護など企業の社会的責任・課題に対応
 使用電力量やピーク電力の抑制など震災後の社会要請に対応

将来： スマートグリッド（次世代送電網）、BEMS(ビルエネルギー
 マネジメントシステム) 対応も検討
 →オフィス機器も需要と供給のバランス最適化に貢献

7. 今後の取り組み(3)



標準化



BMLinkSプロジェクト委員会 会員企業 (50音順)

- ・ キヤノン株式会社
- ・ 株式会社グレースシステム
- ・ コニカミノルタビジネステクノロジーズ株式会社
- ・ シャープ株式会社
- ・ 東芝テック株式会社
- ・ 株式会社ビッグバレー
- ・ 富士ゼロックス株式会社
- ・ 株式会社リコー
- ・ 理想科学工業株式会社

2011年11月現在

おわりに

- ・ BMLinksは新たな価値提供に向けて進化しております。今後のさらなる発展にご期待ください。
- ・ <<<http://www.jbmia.or.jp/bmlinks/>>>

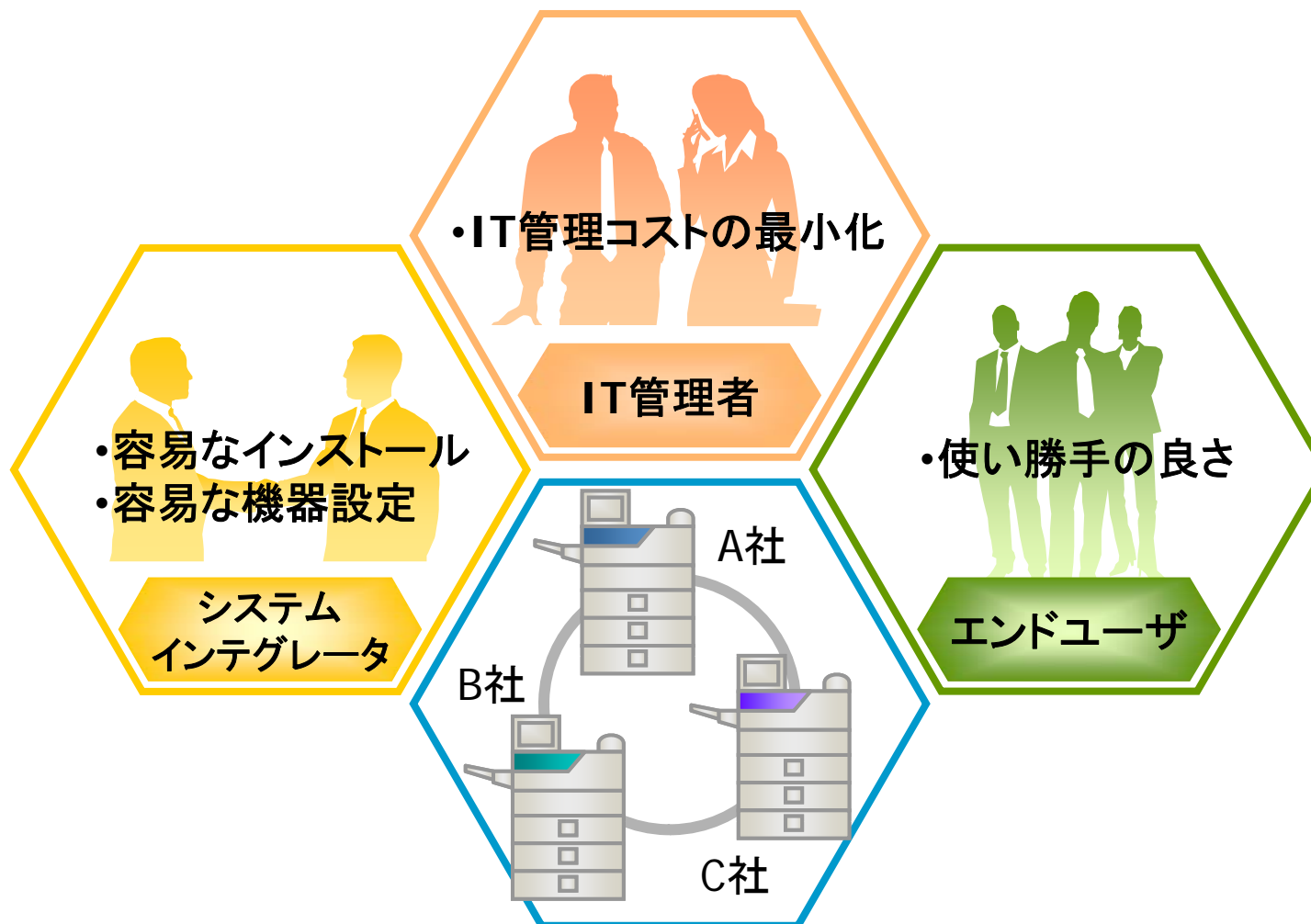


Business Machine Linkage Service

参考:BMLinkSの活動概要



マルチベンダ環境のオフィス機器の困りごとを、
BMLinkSが解決します！「つながる、見つかる、手に入る」



参考:BMLinkSのこれまでの活動経緯



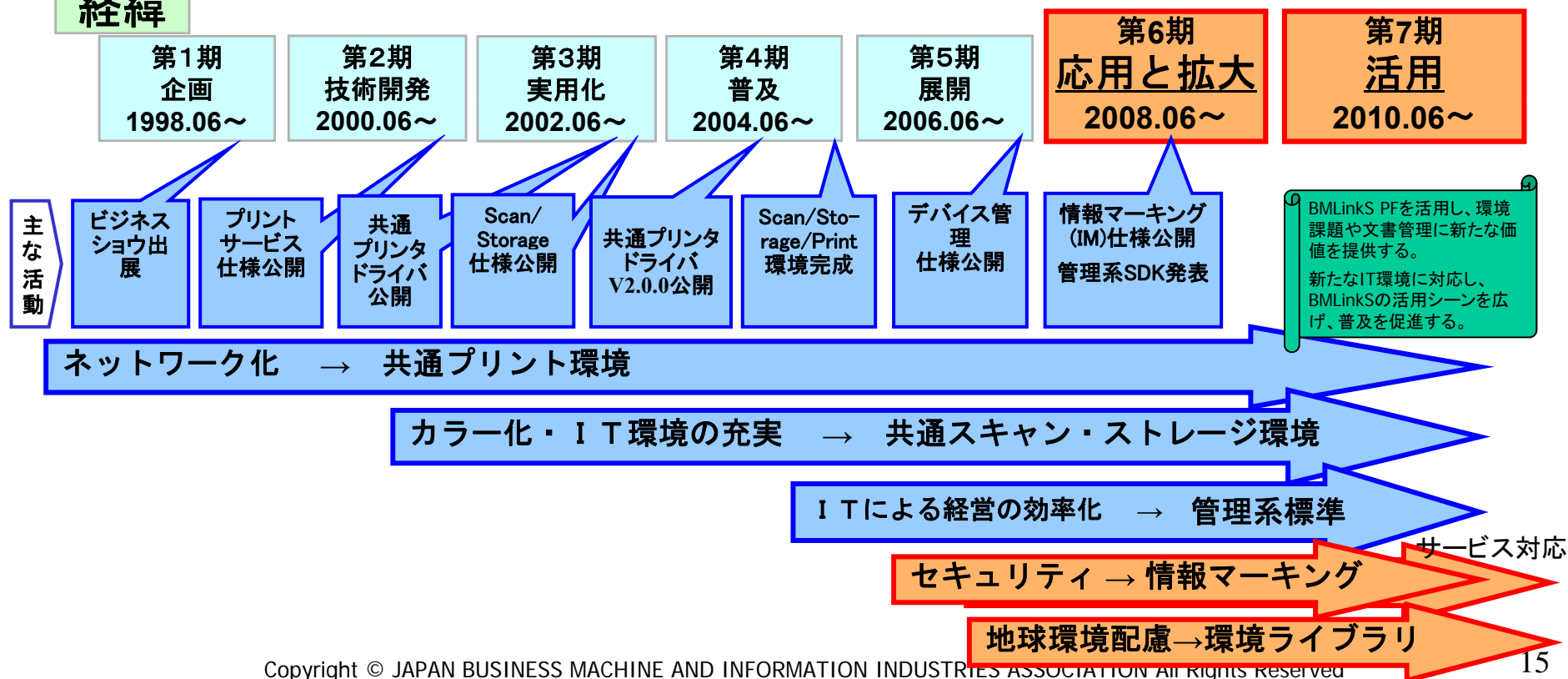
狙い

インターネット環境で、オフィス機器の利便性を向上させる、
プリント/スキャン・機器探索などのプロトコル技術を標準化すること

標語

- ・「つながる、見つかる、手に入る」
- ・日本発のde facto世界標準

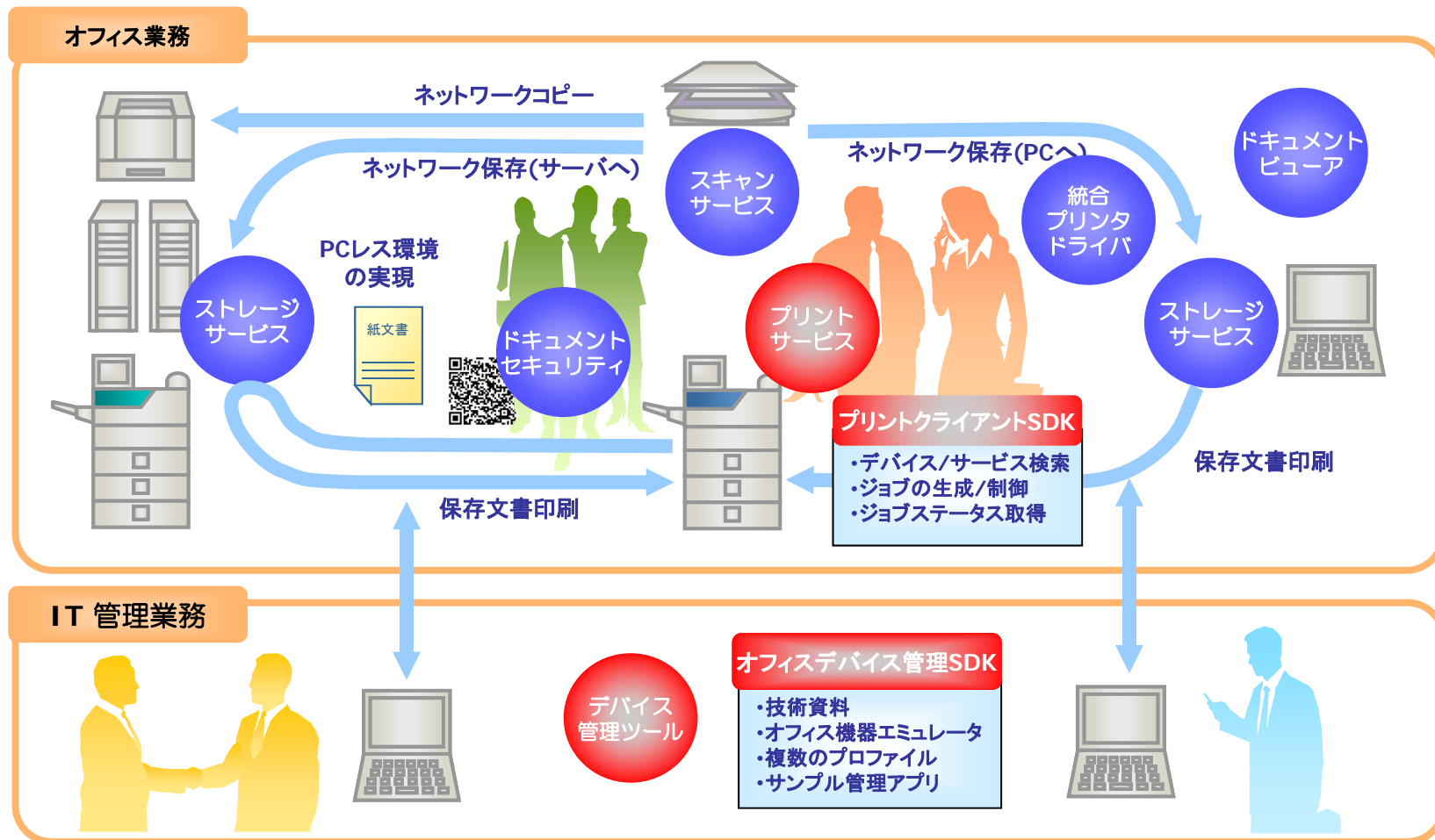
経緯



参考:BMLinkSドキュメント流通インフラ



マルチベンダ環境のお困りごとを解決→「つながる、見つかる、手に入る」
標準化された統合的文書取り扱いの仕組み



参考:ドキュメント流通インフラ構成と BMLinks ステークホルダー

